

相変わらず不順な天気が続いています。南に台風、北は降雪。いったいどうなっているのでしょうか。

天気も政治も経済も、何か変だぞという、私たちの実感は捨てたものではないかもしれません。

その実感をきちんと裏付けるデータと理論が大事。そんな教育をすすめるためにも、メルマガ22号をお届けいたします。

---

◆ 目次

---

【1】最新活動報告

「経済教育ネットワーク東京部会(第33回)」報告

【2】イベントカレンダー

12月4日に行われるシンポジウム「経済教育:次期指導要領に即した教え方」を中心に、  
これからの予定をまとめて掲載します

【3】ニューズピックス

入試問題検討プロジェクト進行中

【4】授業のヒント

---

【1】最新活動報告

---

◆「経済教育ネットワーク」東京部会33回がひらかれました。

10月19日19時より、日本大学経済学部にて、33回の東京部会が開催されました。篠原代表からの活動報告、新井からの入試プロジェクトの報告などがなされました。また、アメリカから帰国されたばかりの宮尾先生が成田から駆けつけ、経済教育と経済学の扱いに関する報告をされるなど、活発な討議と意見交換を行いました。

篠原代表からは、現在進行中の高等学校用の新教科書に関して、現在の教科書の記述で時代遅れになっていたり、過去からの流れで慣習的に書かれている項目について、改善の提言ができないかという問題提起を受ました。比較生産費説の扱いなど改善の必要と思われる箇所に関して、項目と内容を取りまとめて、提言の準備を行うことになりました。

宮尾先生からは、9月に講演をされたコマナー教授とのアメリカでのディスカッションを踏まえて、経済学は既存の制度を分析するだけでなく、制度設計を視野にいれた研究にシフトしつつあり、経済教育でもそれを意識したものが必要という提言をいただきました。また、仕組みを理解させるにはモデルの利用が大切で、経済教育でも、経済実験などの導入が大切であろうとの意見もいただきました。

新井からは、入試問題検討プロジェクトに関連して、2010年の入試問題を検討した分析の報告がされました。今年は、昨年多かった比較生産費説の問題が減り、需給曲線に関する計算問題や応用問題が増えていること、リーマンショック以降の経済状況などの時事問題が多いこと、労働市場の問題なども多く出題されていることなどが特徴との指摘がされました。また、不要に細かい問題も、教科書や資料集の記述を踏まえている例が多く、教科書や資料集問題から見直す必要があるとの指摘もされました。

部会での討議の概略はネットワークの以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo033report.pdf>

---

## 【 2 】イベントカレンダー

---

◆シンポジウム「経済教育：次期学習指導要領に即した教え方」が開催されます

来る12月4日(土)同志社大学で、シンポジウム「経済教育：次期学習指導要領に即した教え方」が開催されます。

次期学習指導要領では、中学公民には「対立と協調、効率と公正」、高校現代社会には「幸福、正義、公正」という概念を学習したうえで、各学習項目に入るという新たな構成が提示されています。これはいままでには無かった内容構成になっており、実際にどのように授業をしたらよいか、現場の先生方には戸惑いもあるようです。

このシンポジウムでは、第一部で、神戸大学の地主敏樹先生の「時事問題を中高生にどう教えるか」という講演を予定しています。金融問題など教員でも追いかけるのに難しい問題をどのように理解して、教えてゆくか専門家からの提案が期待されます。

第二部では、同志社大学の林敏彦先生から「効率と公正をどう教えるか」の基調講演をいただき、それを踏まえて、文科省の教科調査官をつとめられていた大倉泰裕先生のコーディネイトで、現場から三人の先生がたからの提案を受ける予定です。林先生は中学校の教科書の執筆の経験をお持ちです。大倉先生は、次期の学習指導要領作

成の中心的役割を果たした方です。現場の三人の先生方は、すぐれた実践家です。それぞれの角度から、新しく登場した概念をいかに噛み砕き、授業のかたちにしてゆくか、興味深い提案がされることが期待されます。

どうぞ、京都においでください。

シンポジウムの会場、時間など詳細は、以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/flyer%20symposium%2020101204.pdf>

◆これからの予定を掲載します。

1) 経済教育ワークショップ(福井)が開かれます

日時 2010年11月13日(土) 13:00~17:00(受付開始 12:30~)

場所 福井大学文京キャンパスです。今回は、篠原代表の講義とともに「住宅メーカー 職場シミュレーション」のデモンストレーションを行い、シミュレーション教材の活用について検討してゆきます。

内容の詳細などは、以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/flyer%20Fukui%20WS%202010.pdf>

2) 東京部会(No.34)開催します

日時:2010年11月30日(火) 19時00分~21時00分

場所:日本大学経済学部3号館(図書館)4階会議室

内容の詳細、申し込みは、以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo034flyer.pdf>

3) 京都部会(No.9)を開催します

日時:2010年12月3日(金) 19時00分~21時00分

場所:同志社大学光塩館2F 第2共同研究室

4) 大阪部会(No.21)を開催します

日時:12月25日(土) 16時00分~18時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト

京都と大阪の部会に関しては、内容が確定次第HPにアップいたします。

---

### 【 3 】 ニュース・トピックス

---

#### ◆入試問題検討プロジェクト進む

東京部会の報告でもありましたが、本年度の入試問題検討プロジェクトがスタートし、分析がすすんでいます。

本年度は、センターテストの分析も行うことにしました。また、昨年が分野別分析中心だったのに対して、大学別分析を中心に行うことになっています。入試問題は全体的に基礎的、基本的な知識を問うものが多くなっていますが、それでもいわゆる「ドータ問題」は消えていません。例えば、消費者物価指数のデータを公表している政府機関は？ とか、地場産業に関する出題者の研究をそのまま出して、穴埋めをさせる問題など、教室の授業に良い影響を与える入試問題には、まだまだ遠い現実もあり

ます。この二つは学部は違いますが、同一大学での出題です。

現在、担当者が分担して分析中です。12月4日の総会には中間報告ができるように鋭意努力中です。

---

### 【 4 】 授業のヒント

---

財務省のHPに「財務大臣になって予算をつくろう」というゲームがあります。「日本の財政を考える」という一般向けの窓をクリックすると出てきます。<http://www.mof.go.jp/zaisei/game.html>

このゲームを授業でやらせています。このゲームなかなかよくできています。内容は、平成20年度の予算をもとに、基礎的財政収支(プライマリーバランス)を黒字にできるかを競わせるものです。限られた予算をどう分配してゆくの、希少性のもとでの選択、制約条件のもとでどう最大の満足を得ることができるかが、ゲームをやりながら発見できます。

授業後に生徒に簡単な感想を書かせていますが、しっかり現在の財政の構造を見抜いています。プライマリーバランスを黒字化するには、ある秘策があるのですが、財務省がなにを考えているかがそこから浮かび上がり興味深い分析もできます。なかには「結局、財務省は増税したいんだ」とその意図をずばり書く生徒もいて、おもしろい反応が得られます。

PC教室などの条件があればできますから、挑戦してみるとよいとおもいます。ただし、このページ二年前から更新されていません。自民党政権末期のばたばた、政権交代後の迷走などのなかで、HPの更新予算がついていないということかもしれません。せつかくのページです。ぜひ内容を更新して、財務省としての立ち位置を、しっかり訴えることもよしだと思うのですが、どうでしょう。

---

## 【 5 】編集後記(みみずのたはこと)

---

入試問題検討で、予備校の先生たちが書いた本を手にとったところなかなかよくかけているので感心しました。そこで、その先生たちが入試問題をどう考えているかを知りたいと思い、出講している予備校にコンタクトできないかと聞いたところ、「だめ」という回答でした。理由は、直接個人的にコンタクトを取るならいいのだが、予備校経由だと費用が発生する可能性があるのでは、ということでした。

そうなんですね。予備校の先生は高い給与を支払われているタレントと同じなんですね。だから、事務所経由だと当然講師代に相当する費用が請求されるわけです。

それを聞いて、予備校経由のコンタクトは断念しましたが、うらやましいような、かわいそうなようなちょっと複雑な気分を味わいました。また、わが身を振り返り、私の時間コストはどのくらいなのかも考えてしまいました。機会費用が大事だと言いつけている身から言えば、予備校の回答は格好の教材を提供してくれるものだと関心をしています。

=====  
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は以下のアドレスへご連絡お願いいたします。

[contact@econ-edu.net](mailto:contact@econ-edu.net)

=====



---

編集・発行 : 経済教育ネットワーク  
担当 : 新井 明

————— (C) Network for Economic Education ◆◆